

請 願 文 書 表

(総合企画局)

受 理 番 号	3 9 0	受理年月日	令和 7 年 9 月 24 日
件 名	北陸新幹線延伸の反対決議及び白紙撤回の要請		
要 旨	現在、参院選の結果を受けて北陸新幹線の敦賀以西の延伸に関して米原ルートや舞鶴ルートの再検討が行われている。しかし、そこには北陸新幹線の延伸をしないという候補はない。 私は、以下の理由から、北陸新幹線の敦賀以西の延伸に反対している。 1 成熟社会に合わない 建設費は2016年時点で2.1兆円とされていたが、2024年時点で最大5.3兆円とされている。今後建設費が増える可能性も十分に考えられる。また、整備計画が作られた1973年とは異なり、日本の人口は減少している。そのため、将来の世代の負担はより大きくなる。北陸新幹線の延伸の目的は、国民経済の発展、国民生活領域の拡大、地域の振興、速達性、利便性の向上、さらに災害時のリダンダンシーの確保とされている。 しかしながら、現在の日本は経済的に成熟しており、国民経済の発展が人々の幸せに必ずしもつながるわけではないため、国民経済の発展が目的であるのは疑問である。既に国民生活領域は広がっており、更に拡大する必要があるとは言い難い。また、新幹線の開通により、通る地域と通らない地域で差が出ることを考えると、地域の振興につながるかはもっと慎重に検討するべきである。現行の敦賀乗継ぎでも十分速く、これ以上の速達性向上と利便性向上を国民が求めているとは一概に言えない。そして、北陸新幹線延伸の理由の一つとして災害時のリダンダンシーの確保が挙げられているが、東海道新幹線の代わりとしては現状の敦賀乗換えで十分だと考える。 2 環境等への影響 鉄道・運輸機構の資料にある三次元水循環解析モデルの設定条件が十分に公開されておらず、再現性があるとは考えられない。そのモデルに基づき地下水利用に影響を与えないと結論付けているが掘ってみないと分からない。ヒ素を含む残土が出る可能性が高く、受入先が決まっていないことや、工事等により景観が損なわれるおそれがあることが問題であると思われる。 文化財への影響や生態系（丹波国定公園など）への影響を懸念している。トラックの通過や工事により人々の暮らしが脅かされるおそれがある。 3 安全性への懸念 都市トンネルの立坑の間隔が最大10キロメートルとなるため、事故・自然災害の発生時に安全にトンネルから脱出できるのか疑問である。 ついては、以下のことを願う。 1 京都市会において北陸新幹線の延伸に反対する決議をすること。 2 国に対し、北陸新幹線延伸を白紙撤回するよう求める要望書を提出すること。		
請 願 者			
紹 介 議 員	井崎 敦子、山本 陽子、えもとかよこ、加藤 あい		
付託委員会	総 務 消 防 委 員 会		